

 ACAP 生活者懇談会 IN 札幌を開催 変容する北海道の消費者



2回目となる札幌での生活者懇談会



ACAP講座などを紹介する中井委員長

《実施日》 2006年 10月 20日(金)

《会場》 きょうさいサロン会議室

《参加者》生活者側 / 15名

《当日の開催内容》

- ACAPでは毎年1回、地方での生活者懇談会を実施しているが、今回の札幌は3年前の開催から2回目となる。
- 生活者側はNACS北海道支部の宮本支部長以下会員8名(内3名センター相談員)、ACAP側は藤野専務理事、交流活動委員のメンバー等7名が参加し、午後1時30分より5時まで熱心な意見交換会が行われた。
- まずはACAP側の報告として、藤野専務理事より最近の活動報告があり、続いて鍋嶋元理事長より「苦情対応マネジメントシステムの概要」、そして「JIS Q 10002 の自己適合宣言」を行っているサントリーの松尾委員より自社事例の報告があった。
また、札幌在住の鍋嶋元理事長から、関西の消費者と比較しての北海道の消費者の特徴(一般におとなしいが 札幌西友事件のようなこともあり、消費者を甘く 見てはいけない)のお話があった。中井委員長から東京のいくつかの大学で 実施している ACAP 講座の紹介や、ユニ・リーバで行った学生対象のワークショップでの学生の反応を交えた消費者教育 の事例紹介があった。ACAP 側の最後の報告として藤野専務理事より、内閣府からの委託調査「製品の回収措置 に関する情報の利用状況」(いわゆる社告の研究)について ACAP がまとめた報告書の説明があった。
- 休憩をはさんで、NACS の宮本支部長より北海道支部の活動状況の説明があった。会員数は94名で 会員構成は 行政の相談窓口担当者が35%と一番多く、企業の消費者対応部門が25%である。道内は札幌のほかに函館、苫小牧 に分科会があり、啓発事業 として、会員による「エネルギー環境セミナー」や会員を高校へ講師として派遣し、金銭教育 等を行っているという活動の紹介があった。残りの時間は相互

の意見交換を行い、北海道といっても地域によって気質が違ふことや、近年、「おおらかな北海道人」というイメージも変わってきたこと、最近の保険会社の不払い事例についての質疑等 のフリートーキングを行い終了となった。

《所感》

- 札幌は初冬の気配であったが、懇親会に席を移してからは鍋を囲み、熱心に相互の意見交換・交流を図ることができた。



社団法人 消費者関連専門家会議 ACAP(エイキャップ)